

**4. 手掌紅斑 palmar erythema** ★

さまざまな原因によって生じる手掌(場合によっては足底も)のびまん性紅斑である。血中エストロゲン上昇(とくに妊娠や肝機能障害)に関連して生じることが多い。膠原病(SLE, 皮膚筋炎, 関節リウマチなど)や慢性肺疾患などでもみられる。まれに健常人においても生じる。

5. 新生児中毒性紅斑 toxic erythema of the newborn, erythema toxicum neonatorum

正常な新生児の約半数に生じる。紅斑および直径1～2 mmの小膿疱が散在ないし多発する(図9.5)。病理組織学的には好酸球の著明な表皮内、真皮上層への浸潤をみる。数日～数週間以内に自然消退する。

▶ 結節性紅斑→18章 p.354 参照。

▶ 硬結性紅斑→18章 p.355 参照。

B. 環状紅斑 annular erythema

小紅斑として初発し、遠心性に拡大する一方で中心部が消退し、その結果、環状の紅斑を形成する。このような皮疹の出現が主体の疾患の総称である。環状を呈する他の疾患(乾癬、蕁麻疹、体部白癬^{はくせん}など)の場合は環状紅斑とはいわない。感染症や内臓悪性腫瘍、膠原病、薬剤などを背景として発症することがある。原疾患や臨床像の違いにより、表9.5のように分類されている。膠原病を背景とする環状紅斑は12章を参照。

1. 遠心性環状紅斑 erythema annulare centrifugum ; EAC ★

同義語：^{ダリエー}Darier 遠心性環状紅斑

症状

壮年の男女に好発する。体幹部や四肢の中枢側に、直径2 cm 大くらいの浸潤を伴う浮腫性紅斑が生じ、次第に周囲へ遠心性に拡大する。中心部は退色し、辺縁は堤防状に隆起し、輪状ないし不規則な環状紅斑となる(図9.6)。辺縁にわずかな鱗屑^{りんせつ}を付着することもある。皮疹は多発、融合して連環状あるいは地図状となることもある。拡大は2週間前後続き、数週

図9.5 新生児中毒性紅斑 (toxic erythema of the newborn)

表9.5 環状紅斑の分類

図9.6① 遠心性環状紅斑 (erythema annulare centrifugum)